

新入中国人留学生の現状及び指導方法に関する研究 一宝塚大学中国人留学生の調査結果を中心に一

A Study on the Current Situation and Teaching Methods of New Chinese Students :
Focusing on the Survey Results of the Chinese Students in Takarazuka University

李 春 Chun Li
宝塚大学東京メディア芸術学部

抄録

新入中国人留学生の日本語能力、学習能力、技術力、経費支弁能力、受験動機、入学後の希望という現状を把握し、その現状に応じた指導方法を考案することが、彼らの日本留学成功へと導かせる重要なカギだと考えられる。本学の多くの中国人新入生は話すこと及び聞くことを中心とする日本語能力が十分ではなく、論理的な思考力や分析力、読解力、傾聴力、表現力、コミュニケーション能力などを中心とする学習能力も欠如しているが、彼らの多くは高い技術力を持っており、経費支弁能力がある親の資金援助を受け、学費や生活費のためにアルバイトする必要もない。彼らの多くは本学のユニークな分野設計やカリキュラムに魅了され、自身の希望で入学し、日本留学の目的の実現につながる日本の独特な専門知識や技能を身につけようとしている。新入中国人留学生の円滑な学習を妨げている日本語能力及び学習能力を向上させるためには、授業における教員の話の速度の調整、専門用語や外来語の丁寧な説明などを常に心掛けながら、インプット能力もアウトプット能力も重視される練習環境を整備し、日本語のローマ字入力や日本人との会話を含む日本語のアウトプット訓練を強調すると同時に、模倣力のみならず、創造力、発想力、論理的な思考力を鍛える科目の開発や強化も必要だと考えられる。

1. はじめに

本研究は、2018年から2021年までの四年間で宝塚大学東京メディア芸術学部（以下は「本学」と呼ぶ）に入学した中国人新入留学生へのアンケート調査の結果を分析し、本学の新入中国人留学生の現状を明らかにしたうえで、大学がいかにしてその中国人留学生の現状に応じて教育方法を講じるかを提案するところに焦点を当てている。

2018年から、本学を志願する留学生の数は右肩上がりが増加している。本学入試課のデータに基づいて作成した下表はその傾向をはっきりと表している¹⁾。

●宝塚大学留学生志願者数及び合格者数

年度	2017	2018	2019	2020	2021
志願者数	19	81	117	128	169
合格者数	11	55	41	37	35
合格率	58%	68%	35%	29%	21%

合格者数の国籍の内訳を見ると、2018年に中国出身のアメリカ国籍1名、2019年にインドネシア国籍2名、2020年に韓国籍1名、2021年にインドネシア国籍1名を除き、ほかの全員が中国人である。このことにより、本学の新入留学生では中国人留学生が主流を占めていると言える。

しかし、留学生の増加に伴い、どのようにし

てこの中国人を中心とする留学生を指導する
かについて、本学はいままで十分に研究してき
たとは言える状況ではない。そのため、教育の
現場では、一部の中国人留学生が起こした様々
な問題に対して適切な対応方法がわからない、
非常に困っているという声が上がっている。例
えば、授業でいくら質問しても反応してくれな
い、絵を描くことにしか興味が無い、平気で授
業を遅刻や欠席をする、約束されたことを守ら
ない、日本人と交流しようとしない、教職員の
話を無視するなどの問題に対してどう指導す
れば良いのか。また、中国人留学生への指導は
日本人学生への指導と同じ方法でも良いのか、
それとも何かの配慮をしたほうが良いのか、配
慮したほうが良いのであれば、何を配慮すれば
良いのかなどである。

これらの疑問や不安な声は、新入中国人留
学生の現状を把握しておらず、それらの現状に
応じた対応策が提言されていないことからもた
らされたものではないかと考えられる。逆に言
えば、もし新入中国人留学生の現状をできる
だけ把握して理解し、その現状に応じた方策が
提言されれば、上記のような不安や疑問が解消
されるかもしれない。これが本研究の出発点で
ある。

本研究は、研究目的を確定し、研究目的を達
成するためのデータを収集して、収集したデー
タを分析して結論を出すという三つのステッ
プを踏んで行った。

研究目的は前述した教育現場における問題
の解決から生じたものであった。本研究の主な
目的は新入中国人留学生の現状を調査し、それ
らの現状を明らかにするうえで、それらの現状
にどのように対応するかを提案するところに
定められた。

では、新入中国人留学生の現状を把握する
という「現状」とはなにか。すなわち、どのよ
うなデータを収集すれば研究目的を達成する
ことができるのか。これは本研究の第二のステッ
プの焦点である。本研究では、この「現状」を

日本語能力、学習能力、技術力、経費支弁能力、
本学の受験動機、入学後の希望という六項目に
設定することとした。その主な理由は以下の通
りである。

日本語能力は本学での学習の基本的な道具
であり、留学生の日本語能力は本学での学習
内容を掌握できるかどうかを左右するものだ
と考えられる。多くの留学生が在学している以
上、日本人学生のみならず、留学生の日本語能
力にも考慮して授業づくりや指導を行わなけ
ればならない。そうでなければ、日本語能力が
欠如している一部の留学生は授業内容を消化
できないなどの問題がもたされてしまうかも
しれない。

本研究でいう学習能力とは、論理的な思考
力や分析力、読解力、傾聴力、表現力、コミュ
ニケーション能力及び順調な学習に必要な健
康状態などを指している。学習能力は本学での
学習の土台であり、その土台がわからなければ
どのようにしてその土台の上に新しい知見を
構築していくかもわからない。またその土台を
無視して一方的に新知を詰め込んでも受け取
ることができない、もしくはいつか崩れるかも
しれない。学習能力の現状がわかってはじめて
教え方を考案する前提が整うことができると
思われる。

本研究でいう技術力とは、絵を描く能力や芸
術創作に必要な道具を使用する能力などを指
している。留学生の技術力の現状を把握するこ
とは、留学生に満足度の高い専門教育を提供で
きるカギであると考えられる。

経費支弁能力は本学での学習に必要な学習
費用と生活費用の支弁能力を指しており、留
学生が本学での学習を円滑に行うことができ
るかどうかの前提だと考えられる。経費支弁能
力が低下することにより、学習費用や生活費用
の捻出にアルバイト漬けの毎日を送る留学生は、
本学での学習を無事に完了することができる
とは到底考えられない。

本学を受験した動機は留学生が理解してい

る本学と本学が伝えたい本学とマッチングしているかどうかの検証につながる。ミスマッチングが判明した場合、留学生の誤解がもたらすものなのか、それとも本学の伝え方に問題があるのか、様々な角度から見直すことができると考えられる。

入学後の希望は留学生への教育デザインの重要な参考資料の一つだと考えられる。本学のディプロマポリシーを基本とし、留学生の希望を参考しながらデザインした教育プログラムこそ、本学の留学生教育が成功する近道だと理解し、留学生の入学後の希望を調査することにした。

上記の内容を「現状」として調査することを決定し、本研究は、2018年から2021年までの4年をかけて、毎年4月に行われる新入生ガイダンスの後に新入学部留学生（合計170名、2018年61名、2019年36名、2020年38名、2021年35名）を対象に無記名でアンケート調査を行ってきた。2018年と2019年はアンケート用紙を配布して記入してもらった後、その場で回収した。2020年と2021年はMicrosoftのFormsを使用して配信後すぐに記入して送信してもらった。

その四年間の日本語能力、学習能力、技術力、経費支弁能力、本学の受験動機、入学後の希望という現状に対するアンケート調査のデータを収集して分析し、新入中国人留学生の現状を明らかにするうえで、その現状に対して大学側がどのように対応するかを提言することが本研究の第三のステップの主な内容である。本稿はその第三のステップの内容のまとめである。

2. 先行研究について

では、日本国内にあるほかの大学は中国人留学生教育に関してどのように研究しているのか。先行研究を総観してみると、今までの日本国内における中国人留学生に関する研究は、主に日本語教育、日本留学の目的、日本文化への適応、交友関係、心のケア、日本での就職と

いう六種類に大きく分けることができる。

日本語教育について松原愛（2013）は、中国語を母語とする日本語学習者の日本語文の繰り返し音読における分散効果を分析し、費曉東（2013）は中国人留学生上級日本語習得者における日本語漢字単語の聴覚的認知を探求した。張文青（2018）は実験を用いて中国人初級日本語学習者の漢字単語学習における意味処理過程の変容について検討した。

日本留学の目的について葛文綺（1999）は、中国人留学生は純粋に「日本文化に触れたい」といった理由で来日する学生は少ない、来日の目的が複雑な故に、目的の達成度も低いと主張し、張梅（2012）は日本語学校の在籍者へのインタビュー調査を通じて、多くの中国人留学生は日本の大学への進学意識が高く、進学希望は国立大学や名門私立大学に集中していることを明らかにした。李敏（2016）はより質の高い教育、より多くの就職機会を求めることが中国人留学生の日本留学の決定的な要因と分析している。

異文化適応について周宇磊（2017）は、90年代から2000年代初期までの来日する中国人留学生の異文化適応問題は主に日本での生活の中で遭遇した不平等やカルチャーショックによるもので、2008年以後は留学生同士がグループを形成してその中に生活を完結させる傾向がみられると結論付けた。殷夢茜・青木紀久代（2018）は中国人留学生の異文化適応の特徴とそれに影響を及ぼす要因を探求し、丁思琦・松田英子（2020）は在日中国人留学生数の増加に応じた中国人留学生の日本文化への適応支援が不足しており、来日初期のカルチャーショックを乗り越えられず、最終的に適応できないケースも多いと指摘した。

交友関係について呉曉良（2017）は、中国人留学生同士の友人のつながりが最も強いと分析し、中国人留学生と日本人学生の友人関係構築の阻害要因として、「接触機会の少なさ」、「性格や趣味の不一致・余裕なし」、「日本人学生の

友人付き合い志向」、「言語不安・異文化接触不安」、「文化間差異」といふ五つの因子があると指摘している。また、李文・陳全（2020）は2010年代以降に来日した中国人留学生は、日本人とのコミュニケーションに消極的になっており、中国本土のSNS（微信）が日本でも利用されることによって、親子関係を中心とするパーソナル・ネットワークの文化的閉鎖性が留学先でも増幅されているという。

心のケアについて村瀬・北島・山内（1996）らは、日本語学校に在籍する中国人就学生は、大学に在籍する中国人留学生よりも有意に高く抑うつ状態にあると指摘し、藤媛媛・林萍萍（2021）は新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの中国人留学生が強く不安を感じており、感染拡大への無力感、感染することへの恐怖、アジア人に対する差別への憤りなどの在日中国人留学生の生活や心理に与える影響の実態を明らかにした。

就職について井上恵（2016）は、文系中国人留学生が就業動機において、仕事に能力発揮や生きがいを求めるほかに、日本で得た知識や経験を武器にして専門性の向上を追求している」と指摘している。

そのほか、湯永隆・深田博己・周玉慧（2002、2003、2004）らは在日中国系留学生のサポート獲得方略の使用度に対するサポート源と測定次元の影響及びサポート獲得方略の使用度と中国系留学生の人口学の特性ととの関係を検討した。邱炎（2007）は中国人就学生が必要とする日本語学校のサポート尺度の作成を分析し、中国人就学生の学校への援助要請を規定する要因を明らかにした。さらに、閻琳・堀内孝（2017）は、在日外国人留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の因子的妥当性に関して研究し、自己決定理論に基づいて開発した留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の因子的妥当性について検討した。

これらの中国人留学生に関する研究は、疑いなく、在日中国人留学生の教育指導に大き

く貢献しており、本学の留学生教育指導にとっても大いに参考になっている。しかし、これまでの在日中国人留学生に関する研究は、小規模調査もしくはケーススタディ研究がほとんどであり、4年間かけてある大学に在学している全留学生に対する大規模調査はまだ行われていない。そしてピンポイントの研究が多く、中国人留学生の入学時の現状を全面的に調査する研究はまだ行われていない。さらにそれらの現状に応じた実効性のある提言に関する研究も行われたことがない。とりわけ、芸術を中心に学ぶ中国人留学生に特化した研究は、筆者の調べた限りでは、まだ行われていない。

このことにより、本研究の主な意味は、この在日中国人留学生教育研究における空白を埋めるといふところにある、本学をはじめ、中国人留学生を受け入れている美術系学校の教職員に新入留学生の現状に応じた指導方法のヒントを与えるといふところにあると考えられる。

本稿は中国人留学生の基本属性をはじめ、日本語能力、学習能力、技術力、経費支弁能力、本学の志望動機、入学後の希望に関する調査の質問項目及びその回答結果を中心に解析した後、教育指導の方法を提言するといふ文脈に沿って議論展開していく。

3. 中国人留学生の基本属性について

ここでいう属性とは、留学生の年齢、性別、出身地、来日時間などの調査対象の特性データのことを指している。

①あなたの性別を教えてください。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
男	38	23	12	23	96
	62%	56%	32%	66%	55%
女	23	18	25	12	78
	38%	44%	68%	34%	45%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

【注1：2018年度アンケート調査は学部1年次留学生55人と3年次編入生6人を対象としたため、調査人数は61人となっている。】

【注2：見やすいように、比率が高いところを灰色に塗りつぶしている。】

現状：2020年度を除き、新入留学生のうち、男子留学生が多いという傾向が見られる。四年間の合計から見ても、男性が55%を占めているのに対し、女性は45%しか占めていない。

②あなたの年齢を教えてください。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
10代	12	12	10	3	37
	20%	29%	27%	9%	21%
20代前半 (20～24)	48	29	26	31	134
	79%	71%	70%	89%	77%
20代後半 (25～29)	1	0	1	1	3
	1%	0%	3%	3%	2%
30代	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：20代前半が最も多く、77%を占めている。多くの留学生は、日本の高校卒業生より2～7歳以上年齢が高い。すなわち、未成年者が少なく、成人が多いことを示している。

提言：成人が多いという点から見れば、留学生の自尊心やプライドなどを考慮しながら接する必要がある。高校卒業したばかりの未成年の日本人学生と全く同じ扱いをしないほうが良いかもしれない。

③あなたの最終学歴を教えてください。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
高校卒	49	39	32	27	147
	80%	95%	86%	77%	84.5%
3年制大卒	8	1	3	4	16
	13%	2.5%	8%	11%	9%
4年制大卒	3	1	2	4	10
	5%	2.5%	5%	11%	6%
専門学校卒	1	0	0	0	1
	2%	0%	0%	0%	0.5%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：高校卒業が84.5%を占めており、圧倒的に多い。中国で高校卒業した後、1年前後で日本語を学習し、法務省が定めた日本留学に必要な最低限の日本語力（N4程度）を身につけてから、日本の日本語学校に入学し、日本語学校で1～2年間日本語を学習した後、本学に入学した人が多いことを示している。しかし、多くの留学生の年齢は、日本の高校卒業生より2～7歳高いが、学歴は日本の高校卒業生とほぼ同様であり、社会経験なども日本の高校卒業生とほぼ同様か日本の高校卒業生より乏しいかもしれない。なぜなら進学受験の勉強に偏っている中国の学校教育制度及び保護者が受験勉強以外の活動を認めないという教育方針の問題で、中国の高校生には、アルバイトや課外活動の経験者がほとんどいないからである。

提言：日本の高校卒業生より年齢が高いという点を考慮する必要があるが、知識や能力の基礎などにおいては、日本の高校卒業生とほぼ同じレベルにあると理解しても良いと考えられる。

④あなたの出身地を教えてください。

省国名 (GDP順位)	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
北京 (13)	3	0	3	2	8
	5%	0%	8%	6%	46%
上海 (10)	5	5	5	3	18
	8%	12%	14%	9%	10.3%
天津 (23)	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
重慶 (17)	2	0	0	0	2
	3%	0%	0%	0%	1.1%
河北 (12)	2	1	0	0	3
	3%	2.5%	0%	0%	1.7%
山西 (21)	2	1	1	1	5
	3%	2.5%	3%	3%	2.9%
内モンゴル (22)	0	0	1	3	4
	0%	0%	3%	9%	2.3%
遼寧 (16)	1	0	1	3	5
	2%	0%	3%	9%	2.9%
吉林 (26)	0	1	0	1	2
	0%	2.5%	0%	3%	1.1%
黒竜江 (25)	0	1	0	0	1
	0%	2.5%	0%	0%	0.5%
江蘇 (2)	9	6	2	2	19
	14%	15%	5%	6%	10.9%
浙江 (4)	4	3	0	1	8
	7%	7%	0%	3%	4.6%
安徽 (11)	2	1	0	0	3
	3%	2.5%	0%	0%	1.7%
福建 (7)	2	3	2	0	7
	3%	7%	5%	0%	4%
江西 (15)	4	1	1	0	6
	7%	2.5%	3%	0%	3.4%
山東 (3)	6	0	2	4	12
	9%	0%	5%	11%	6.9%
河南 (5)	4	1	3	1	9
	7%	2.5%	8%	3%	5.2%
湖北 (8)	1	2	3	1	7
	2%	5%	8%	3%	4%
湖南 (9)	1	2	0	1	4
	2%	5%	0%	3%	2.3%

広東 (1)	5	2	4	4	15
	8%	5%	11%	11%	8.6%
海南 (28)	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
広西 (19)	0	1	0	0	1
	0%	2.5%	0%	0%	0.5%
四川 (6)	3	2	3	2	10
	5%	5%	8%	6%	5.7%
貴州 (20)	0	1	0	1	2
	0%	2.5%	0%	3%	1.1%
雲南 (18)	0	2	0	1	3
	0%	5%	0%	3%	1.7%
チベット (31)	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
陝西 (14)	1	2	0	0	3
	2%	5%	0%	0%	1.7%
甘肅 (27)	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
青海 (28)	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
寧夏 (29)	0	0	1	0	0
	0%	0%	3%	0%	0%
新疆 (24)	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
香港	2	1	2	3	8
	3%	2.5%	5%	9%	4.6%
澳門	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
台湾	1	0	2	1	4
	1.6%	0%	5%	3%	2.3%
アメリカ	1	0	0	0	1
	1.6%	0%	0%	0%	0.5%
インド ネシア	0	2	0	1	3
	0%	5%	0%	3%	1.7%
韓国	0	0	1	0	1
	0%	0%	3%	0	0.5%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：上記の中国省市名の並び方は、中国国内で発表された公式の並び方であり、省市名の後の数字は、2020年度中国大陸31省のGDPの順位を示すものである（香港、澳門、台湾を除く²⁾】。

現状：本学の中国人留学生の出身地のトップスリーはGDP 2位の江蘇省、10位の上海市、1位の広東省である。これは、多くの中国人留学生はGDPが高い省市、言い換えれば、中国の裕福な地域から来ていることを示していると同時に、一部の省に留学生が集中しているということも明らかになっている。それは、本学がまだ中国の多くの地域の人に認知されていないということを示している。

提言：長い目で見れば、本学は裕福な中国人留学生を引き続き受け入れたほうが経営上有益だと考えられる。そのため、中国における本学の知名度をいかにしてさらに高めるかは大きな課題となる。GDPが高いところのみならず、中国全国範囲への広報活動を行い、中国全国から留学生を募ることも挑戦したほうが良い。なぜなら、GDPが低い省にも裕福な家庭で育った漫画アニメなどが大好きな日本文化のファンがいるからである。

④あなたは来日して何か月が経ちましたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
6か月 (10月生)	2	1	1	4	8
	3%	2.5%	3%	11%	4.6%
9か月 (7月生)	7	3	2	0	12
	12%	7%	5%	0%	6.9%
12か月 (4月生)	13	3	9	0	25
	21%	7%	24%	0%	14%
15か月 (1月生)	0	0	1	1	2
	0%	0%	3%	3%	1.1%
18か月 (10月生)	11	8	4	8	31
	18%	20%	11%	23%	18%
21か月 (7月生)	2	7	7	4	20
	3%	17%	19%	11%	11.5%
24か月 (4月生)	19	18	7	10	54
	31%	44%	19%	29%	31%
24か月以上	7	1	6	8	22
	12%	2.5%	16%	23%	12.6%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：日本語学校は通常年に4回（1月、4月、7月、10月）学生を募集することができる。入学時期により、学生は1月生、4月生、7月生、10月生と呼ばれることが多い。】

現状：来日して24か月以上経つ留学生、すなわち、日本語学校で2年間にわたり日本語の学習を経験した留学生が31%しかおらず、69%の留学生は日本語学校での学習時間は2年未満ということを示している。厳密に言えば、日本語を2年間学習したからと言って日本語力が高いというわけでもなく、日本語学習が2年間未満だからと言って日本語力が低いというわけでもないが、中国人留学生の指導に長年携わってきた筆者の経験及び大学受験のための日本語彙文法中心の日本語学校の教育現状から見ると、留学生は2年未満の日本語学習だけで日本人学生と同様に日本の大学の授業を理解することができるレベルに到達することは非常に難しい。

提言：本学に入学した中国人留学生はすでに日本語学校を卒業し、本学の入学試験にも合格したため、授業の内容を理解することができるだろうという先入観を持たないほうが良い。むしろ、日本人学生を対象とする授業と同様なスピードや言葉を使うと中国人留学生がわからないかもしれないという意識を常に持つべきである。特に中国人留学生が最も苦手とされているカタカナ語や外来語などを使用する際に工夫する必要がある。

4. 日本語能力について

新入中国人留学生の日本語力は、どのような状態にあるのか、どのような内容を調査すれば、その状態を明らかにすることができるのか。本研究では、他者の客観的な判断と自身の主観的な判断という二つの基準から留学生の日本語力を調査することにした。他者の客観的な判断というのは、国際交流基金及び財団法人日本国際教育支援協会が運営する日本語能力試験（JLPT）と独立行政法人日本学生支援機構が運営する日本留学試験（EJU）の成績を指している。そして自身の主観的な判断というのは、聴く、話す、読む、書くという外国語の

五能力についての自己判断、パソコンを用いた日本語入力（本研究では、日本語のローマ字入力を指している）の力についての自己判断、日本語能力の向上に関する取り組み方についての自己判断という三つの側面を指している。この客観的な判断及び主観的な判断の現状を明らかにすれば、新入中国人留学生の日本語能力の現状の核心的な部分を把握することができるのではないかと考えた。

①現在あなたの日本語のレベルは日本語能力試験JLPTの何級（合格）ですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
N1	10	9	11	7	37
	16%	22%	30%	20%	21%
N2	34	23	24	23	104
	56%	56%	65%	66%	60%
N3	2	0	1	2	5
	3%	0%	3%	6%	3%
受けていない	15	9	1	3	28
	25%	22%	3%	9%	16%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：日本語能力試験N1の合格者が21%しかおらず、N2の合格者が最も多く、60%を占めている。本学の出願資格であるN2レベルに達していない人は19%もいる（2019年度はN2が不要、2021年度は新型コロナウイルス蔓延の影響で日本語能力試験が中止されたため、N2がなくても受験可能）。日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験である。JLPTの判定基準によると、N1レベルは、「幅広い場面で使われる日本語を理解することができる」とされ、N2レベルは「日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語のある程度理解することができる」とされている。各レベルの認定を「読む」「聞く」という言語行動で表している³⁾。しかし、これはあくまで

もレベル認定の目安であり、それに合格した人がそのような能力に到達したとは限らない。ここ数年の面談で明らかにしたN2合格者の授業理解状況を総合的に見ると、N2合格者の中では、本学の「授業が大体わかる」と自己申告した人が非常に多かった。そしてN1に合格した人も会話や作文が苦手と訴えている。これはJLPTが「読む」「聞く」というインプットの能力しか求めておらず、合格者は求められていない「話す」「書く」というアウトプット能力を軽視した結果だと推測することができる。

提言：N1レベルの到達は、本学の教育に必要だけでなく、留学生の就職の前提条件でもあるため、全留学生を対象とするN1合格対策のプログラムを組むことを前提に、インプットとアウトプットの両方が重視されるN1レベルの合格者を増やすことが急務だと考えられる。

②あなたは日本留学試験EJU日本語（読解・聴解・聴読解・記述）を受験しましたか。合計何点取りましたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
150～200		4	1	3	8
		9%	3%	9%	7%
201～250		18	4	13	35
		51%	11%	37%	31%
251～300		8	17	7	32
		20%	50%	20%	28%
301～350		4	11	4	19
		9%	30%	11%	17%
350～400		0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%
受けていない		7	4	8	19
		17%	11%	23%	17%
合計	61	41	37	35	113
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：この項目は2019年から追加されたため、2018年のデータがない。】

現状：200～300点が最も多く、300点以上が17%しかいない。さらに、17%は試験でさえ受

けていない。日本留学試験は、外国人留学生として、日本の大学（学部）等に入学を希望する者について、日本の大学等で必要とする日本語力及び基礎学力の評価を行うことを目的に実施する試験である。日本語の得点は、読解、聴解、聴読解の400点に記述の50点を加えて合計450点となる⁴⁾。本学は記述の点数をカウントせずに読解、聴解、聴読解が220点以上の取得を留学生選抜の出願資格としている。すなわち、総得点の400点の55%の点数を取得すれば出願可能ということである。本学の留学生の成績を見ると、新入留学生は日本の大学で必要とする日本語力が十分に身につけているとは言い難い。

提言：日本語能力試験は日常的な場面で使われる日本語能力を判定するための試験で、その結果は世界に通用する日本語の資格として認められているが、留学試験のような日本の大学での学習に特化した日本語能力の測定ではない。日本語能力試験の最高レベルN1に合格したからと言って、日本の大学の履修や授業にかかわる言葉を理解することができるとは限らない。例えば、オリエンテーション、学則、シラバス、履修登録、掲示板などの言葉、各科目の履修説明、授業の流れに関する説明、学務課や就職課などの案内の言い方などである。日本留学試験成績の高得点者が少ないというのは、上記のような大学での学習に必要な日本語能力が高くないことを意味している。そのため、日本留学試験の問題を参考にして入学後にある期間を設けて、大学で使用する特殊な言葉や言い回しの講習を行ったほうが良いと考えられる。

③あなたは自分の日本語で一番苦手だと思っているのはどれですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
聴くこと	10	5	5	4	24
	16%	12%	14%	11%	14%
話すこと	37	21	21	15	94
	61%	51%	57%	43%	54%
読むこと	4	8	2	2	16
	7%	20%	6%	6%	9%
書くこと	10	7	9	14	40
	16%	17%	25%	40%	21%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：話すことが一番苦手だと自覚している留学生が54%も占めている。その次は21%を占めている書くことである。これは前述した試験に必要とされるインプットの力、すなわち、聴くことや読むことしか重んじず、試験に必要とされないアウトプットの力、すなわち、話すことや書くことを無視した日本語教育や日本語学習方法がもたらした結果だと考えられる。そして、この結果は、日本語学習における中国人留学生の特徴、すなわち読み書きは強く、会話力は弱いということもはっきりと表している。日本語と中国語は一部の文字、文法において互換性が存在しているため、一部の中国人留学生は日本語を学習する際に、中国語と同様な漢字に出会うと、すぐに中国語の漢字と照合し、中国語の意味でその日本語の漢字を読み取ってしまう。文字の書き方も同じ、意味も同じだから、「発音も当然同じだろう」という推論が無意識的に行われ、日本語の発音は無視し、できないままその学習が完了されてしまう。発音が無視されたことは発音がわからないことにつながり、日本語の「話す」と「書く」ができなくなることにつながる。

提言：授業における教員の話の速度の調整、専門用語や外来語の丁寧な説明などを常に心掛けると同時に、インプット能力もアウトプッ

ト能力も重視される練習環境を整備し、訓練を強化しながら、日本語のアウトプットの大切さを改めて強調することは彼らの日本語能力を全面的に向上させる方法の一つであるかもしれない。

④あなたはパソコンで日本語のローマ字入力ができますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい		0	29	23	52
		0%	78%	66%	46%
いいえ		41	8	12	61
		100%	22%	34%	54%
合計	61	41	37	35	113
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：この項目は2019年から追加されたため、2018年のデータがない。】

現状：日本語のローマ字入力ができる留学生は48%、できない留学生は52%いるという結果になっているが、その後の面談で、ローマ字入力をアルファベット入力と勘違いした人は多かったということが分かった。例えば、「宝塚大学東京メディア芸術学部一年生」をローマ字で入力してもらおうと、正解は一人もいなかった。すなわち、実際に日本語のローマ字入力ができない留学生は48%よりもっと少ないということになる。日本語のローマ字入力は、まず日本語を正確に発音することができること、そして日本語をローマ字に変換することができること、という二つの力が要求される。しかし、多くの留学生は日本語能力が不足しており、そして日本語をローマ字へ変換する勉強をしたことがないため、入学時に日本語のローマ字入力ができない状況にある。パソコンで日本語のローマ字入力ができなければ、本学での学習に支障を与えるだけでなく、将来の就職活動にも大きな悪影響を与えてしまう。この学習と就職に必須なローマ字日本語入力の習得は喫緊な課題となっているに違いない。

提言：日本語のローマ字入力練習プログラムを授業に取り組む必要があり、履修単位を与える科目の内容の一部として構築する方法も考えられる。ローマ字入力ができなければ、単位を与えることができない、というような半強制的な方策を講じなければ、ローマ字入力の重要性がいくら強調されても無視されてしまう可能性がある。現行の「表現とICT」の授業の冒頭では、10分程度のローマ字入力の練習時間があるが、それは画面に出て来るローマ字を見て入力する、すなわち、入力スピードの練習に過ぎない。日本語の発音及びローマ字変換の学習を現実化することができる科目として、日本語科目が挙げられる。日本語の発音と発音をローマ字へ変換することが同時に学べるのが日本語科目しかないからである。

5. 学習能力について

本研究でいう学習能力とは、論理的な思考力や分析力、読解力、傾聴力、表現力、コミュニケーション能力及び順調な学習に必要な健康状態などのことを指している。本研究では、中国人留学生の高校の類別、論理的思考などを要する理論系科目への態度、授業以外の新知吸収への取り組み、日本人とのかかわり方などを中心に学習能力について調査することにした。

①あなたは高校の時美術生でしたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	41	20	22	16	104
	73%	49%	59%	46%	60%
いいえ	15	21	15	19	70
	27%	51%	41%	54%	40%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：中国の高校時代から専ら美術系大学受験のために美術を中心に勉強する美術生が60%を占めている。これは中国で「学習能力が低い」

「絵画以外の教養科目の勉強が苦手」と言われている美術生が本学の留学生の半数以上を超えているということを意味している。日本では、「美術生は学習能力が低い」「美術生は絵画以外の教養科目の勉強が苦手」という言い方は差別言論に該当するかもしれないが、中国では、それを差別言論として受け取る人はおらず、むしろすでに一般論として中国の教育・社会制度に浸透し定着されている。教育及び大学受験制度における美術生の扱いはその典型的な例である。中国の大学受験生には文系生、理系生、芸術生（美術生と音楽生）、体育生という四種類に分けられ、それぞれの大学受験の内容や合格ラインは異なる。多くの高校は1年次の後期から学生の学力と希望によって学生を分類し、その種類の大学受験に重要視される内容を重点的に勉強させる。美術生の場合、文化教養科目（国語、数学、外国語、歴史、地理、理科など）よりも美術科目の成績のほうが重要視される。すなわち、そもそも中国では美術生の教養科目の学習が重視されていない。美術などの技術科目がよければいい、教養科目はあまりできなくても構わないと思われている。美術生はそもそも文化教養科目の勉強ができないから、大学受験する際に文化教養能力を高く要求することなく、画力でさえ高ければいいという方針である。これらの方針は中国の大学受験の内容及び合格ラインに鮮明に現れている。美術生の国語、数学、英語、理科などの文化教養科目の合格ラインは文系生と理系生より明らかに低い。下表は2021年中国GDPランキング1位の広東省の大学入試合格ラインである⁵⁾。

●2021年広東省大学入試合格ライン

類別	合格ライン		満点	
			教養	技術
文科類	教養科目448点		750	
理科類	教養科目432点		750	
体育類	教養科目 347	体育技術 195	750	300
美術類	教養科目 325	美術技術 200	750	300
音楽類	教養科目 325	音楽技術 185	750	300

(注：教養科目の満点値：国語150、数学150、外国語150、総合科目300。合計：750。)

上記の表によれば、教養科目満点750点の中、文科類学生の合格ラインは448点、理科類学生の合格ラインは432点であるのに対し、美術類学生の合格点ラインは325点しかない。すなわち、教養科目の達成度においては、文系の学生に対して60%、理系の学生に対して58%を求めているのに対して、美術系の学生に対して43%しか求めていない。このような教育と受験制度で育てられた中国の美術生は創造力や論理的な思考力の基礎となっている教養科目の知識や技能がそもそも欠如しており、それに基づく創造力や論理的な思考力が高いとは考えにくい。入学後の面談で、多くの中国人留学生は「目の前にある被写体を写す技術系の授業が好き、講義型の理論系の授業が嫌い」、「もの描きやものづくりのような手作業が好き、文章の作成が嫌い」、「先生が言わないと何をするかわからない」、「ノートをとる習慣がない、文献を調べる習慣がない」と自分の学習における問題を訴えている。これはほかでもなく、美術生出身の中国人留学生の模倣能力は高いが、独創能力や論理的な思考能力は欠如しているということの証明ではないだろうか。本学の留学生の中で美術生が多いということは、少なくとも以下の二点を意味している。一つは、日本の美術系大学を受験しようとする中国人留学生はすでにある程度の美術基礎知識や技能を持っている人は多いが、論理的な思考力や創造力などが欠如

している学生も多い。もう一つは、高校入学時から定めた進学目標に向けて揺ぎなく目指し、美術の勉強への強い信念を持って入学したことである。この二点を理解することが美術系中国人留学生を受け入れている日本の美術系大学のカリキュラム設置や学習方法の指導において極めて重要なことである。

提言：中国の美術生は論理的な思考能力、独創力などが欠如しているという中国の一般的な受け止め方を理解しながら、学生の模倣力のみならず、創造力、発想力、論理的な思考力を鍛える科目の開発や強化は中国人留学生のこの弱点を克服する一つの方法と言えよう。そして留学生に美術の学習への強い信念を貫かせる工夫も施したほうが良いと思われる。親の過保護で育った中国人留学生にとって、「美術生の就職が厳しい、頑張らないとダメ」というような苦しい未来を示すよりも「漫画・アニメが好きな人は世界中いっぱいいる、頑張ればきっといい結果が待っている」という明るい前途を示す指導のほうが彼らは前向きに邁進させていくかもしれない。

②あなたはどんなタイプの授業が好きですか。

項目	人数/比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
理論系		0	4	1	5
		0%	11%	3%	4%
実技系		17	23	10	50
		41%	62%	29%	44%
理論+実技系		24	10	24	58
		59%	27%	69%	52%
合計	61	41	37	35	113
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：この項目は2019年に追加されたため、2018年のデータがない】

現状：理論系の授業を好む留学生は4%しかおらず、実技が好きな留学生は、「理論+実技系」を含めば96%も占めている。これはまさに前述した模倣が好き、独創が苦手という中国の

美術生の特徴をはっきりと表した結果であろう。論理的な思考力や独創力などを養う文化教養科目が苦手な美術生にとって、美術学習の特性、すなわち被写体の模写からはじめ、うまく模写すればするほど、自分の画力を高めることができるだけでなく、親などの他人からも高い評価を得られることは、さらに彼らの「模倣したい」という気持ちを助長し、参照物のない独立思考能力はますます委縮してしまう。本学の多くの中国人留学生にとって、論理的に物事ものことを考える力を必要とする理論系の授業は非常に苦手だと思われる主な理由がここにあるかもしれない。もう一つの理由として考えられるのは、親がなんでも代行してあげようとしている過保護行動がもたらした弊害である。長年過保護生活の影響で、一部の中国人留学生はすでに自分で考える必要がなく、親の指示や計画通り動けばいいという生活スタイルを形成しているため、自分で考える習慣はそもそも持っていない。逆に他人が考えた結果を踏襲し、または既成のものを写すことは彼らの習慣になっている。

提言：苦手なこと、嫌いなことを無理やりに押し付けても決して上手になり、好きになることはないだろうが、独立思考能力、論理的な思考能力の重要性をわかりやすい形で理解させ、実践させる試みが必要である。例えば、クリエイターの仕事に欠かせない能力の一つとして、自分が表現したいことを他人に伝える力はどうしても必要になってくる。どのようにして完璧に自分の伝えたいことを伝えるか、その伝えたいポイントを整理させ、伝える方法を考えさせる練習は独立思考能力、論理的な思考能力そのものの訓練になるのではないと思われる。また、どのようにして他人の依頼を完璧に理解することができるか、5W1H（When:いつ、Where:どこ、Who:誰、What:何、Why:なぜ、How:どのように）思考法で整理させる練習も同様な効果を得られるのではないかと考えられる。このような自分の将来の仕事に

つながる練習であれば、おそらく留学生も簡単に無視できないだろう。このように苦手や嫌いだとと思われることが無意識のうちに訓練できる授業づくりを展開したほうが良いかもしれない。

③今まであなたは1コマ90分の授業を受けたことがありますか。

項目	人数/比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい		32	28	17	77
		78%	76%	49%	68%
いいえ		9	9	18	36
		22%	24%	51%	32%
合計	61	41	37	35	113
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：この項目は2019年に追加されたため、2018年のデータがない】

現状：全員が1コマ90分の授業を経験したことがあるというわけではない。経験した留学生は68%もいるが、残りの32%は経験したことがない。中国の小学、中学、高校の授業は日本と同様に1コマ45分と定められており、日本語学校の授業も1コマ45分で区切ることが多いため、補習塾の学習を除き、中国の大学に在学したことがない留学生であれば、1コマ90分の授業を受けたことがなく、本学に入学してはじめて1コマ90分の授業を受けたと思われる。そのため、授業における一部の留学生の集中力が続かないという問題の主な原因はここにあるかもしれない。

提言：1コマ90分の授業に慣れるまで、高校や日本語学校の授業方式の延長として、授業の途中に適切な休憩や背伸び運動、一方的な解説から学生同士の討論へ授業スタイルを転換するなど工夫する必要がある。

④今まであなたはほかの人と一緒に何かの課題を完成させたことがありますか。

項目	人数/比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい		29	28	15	72
		71%	76%	43%	64%
いいえ		12	9	20	41
		29%	24%	57%	36%
合計	61	41	37	35	113
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：この項目は2019年に追加されたため、2018年のデータがない】

現状：64%は協同作業を経験したことがあるのに対し、36%は経験したことがない。経験したことがない留学生にさらにインタビューしてみると、経験したことがない留学生のうち、他人とうまく協調できない留学生と他人と協調したくない留学生という二種類がいることも明らかになった。他人とうまく協同作業を行うことができなければ、本学における学業に限らず、留学生の将来にも悪影響を与えるかもしれない。個人の性格などを除き、この問題をもたらした主な原因は、親の過保護及び留学生の日本語力不足だと考えられる。90年代以後に生まれた中国の一人っ子たちは、「小皇帝」と呼ばれる家庭の中心的存在であり、常にナンバーワンの地位を独占し、他人とどのように共作するか、どのように協調するか、どのように競争するかなどの他人とのかかわりあい方が一人っ子たちはわからない。学校においても入学時から受験準備の学習に偏り、チームワークがほとんどなく、あくまでも数多くのナンバーワンが同じ教室に座って独立作業に過ぎないと言われている。また、日本語力の不足により、日本人学生と話をするのが怖い、間違ったら笑われるのが怖いということも協同作業を妨げる一つの原因だと思われる。

提言：社会人として他人と何らかの協同作業が欠かせないという意識をあらゆる科目において植え付けるうえで、協同作業が取り組むこ

とができる科目においてはなるべく適切な協同作業に取り組んだほうがいい。例え二人一組になって5分間ディスカッションだけでも共作意識や共作能力の向上につながると考えられる。

⑤あなた学校以外の時間でニュースなどの日本語文章を読みますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	44	32	28	30	134
	72%	78%	76%	86%	77%
いいえ	17	9	9	5	40
	28%	22%	24%	14%	23%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：77%はネットなどでニュースなどの日本語文章を読んでいるのに対し、読まない留学生は23%しかいない。日本語を読解の道具として使いたい、他人とかかわらずに独自で静かに日本語に慣れようとしている姿勢が見られる。これも前述した他人との協同作業が苦手という中国人留学生の特徴と合致している。しかし、やはり日本語の音声がない世界での日本語閲読だけでは聴解力と会話力の向上につながらない。

提言：文字情報を脳裏にインプットすることはもちろん非常に大事なことだが、それを踏まえて動画や音声情報のインプットも必須であるという指導を可能な限り多くの教職員が多くの科目で行ったほうが良い。

⑥あなたの家にはテレビがありますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	13	11	12	8	44
	21%	27%	32%	23%	25%
いいえ	48	30	25	27	130
	79%	73%	68%	77%	76%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：家にテレビがない留学生は76%も占めていることが明らかになった。多くの留学生は日本のテレビ局が放送するニュースや日本のテレビ番組を見たことがなく、日本にいながら動画と音声で日本語や日本の情報を入手する道具を持っていない。なぜテレビを持たないかを尋ねると、次の三つの主な理由が挙げられる。一つ目は、そもそもテレビを見る習慣がない。インターネット社会に突入した中国社会の若者たちは、テレビを通して情報を入手するのではなく、パソコンやスマートフォンを通じて文字、音声、動画のあらゆる情報を入手しているという。なぜならインターネットを通じてテレビの番組もほとんど見ることができるからである。テレビを見るのは年数回でインターネットで見られないもののみと留学生たちが言う。二つ目は、日本語が下手なので、日本のテレビを見ても理解できない。三つ目は日本語が下手なので、日本でテレビを購入し設置する際の会話と説明書の理解が難しく面倒くさいという。

提言：日本語の文字のほかに、日本語の動画や、教職員と日本人学生以外の音声で情報を脳裏にインプットすることも重要であることを理解させるうえで、それを実現させる環境整備も行ったほうがいい。授業の内容に合わせて動画や音声を適切に取り上げることや、日本語の動画や音声を脳裏にインプットできるツールを紹介すること及び学生ホールなどでテレビを設置することも検討すべきかもしれない。

⑦あなたは日本の図書館に行ったことがありますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	22	13	14	16	65
	36%	32%	38%	46%	38%
いいえ	39	38	23	19	109
	64%	68%	62%	54%	62%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：62%は日本の図書館に行ったことがないのに対し、行ったことがある留学生は38%しかない。図書館へ行く意味が分からないと多くの留学生は語っている。これは現在の中国社会の実情を映し出したのではないかと考えられる。紙媒体からデジタルへの移行が加速化している中国では、図書館の役割がますます軽視されてしまい、インターネットにおける読書や調査は主流となっている傾向が見られる。そのため、多くの中国人留学生は資料収集やリサーチを学習の重要な方法として図書館を利用した経験がなく、日本に来てから図書館へ行くことを思いつかない。

提言：授業や講座など何らかの方法で留学生に図書館の利用方法をはじめ、学習や研究におけるリサーチ及び先行研究分析の必要性及びやり方を教えることは非常に重要だと考えられる。

⑧あなたは今まで日本の礼儀作法マナーなどの社会常識を勉強したことがありますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい		19	26	20	65
		46%	70%	57%	56%
いいえ		22	11	15	48
		54%	30%	43%	44%
合計	61	41	37	35	113
	100%	100%	100%	100%	100%

【注：この項目は2019年から追加されたため、2018年のデータがない。】

現状：56%は日本の礼儀作法などの社会常識を勉強したことがあると回答しているが、入学後の様子を見ると、日本の礼儀作法などの社会常識を学んだことがあるという結果とは裏腹に多くの留学生は挨拶の仕方わからない、約束を守らない、授業態度が悪い、間違っても謝らないなどの問題行動を引き起こしている。これは勉強したことがない、または勉強したとしても身につけていない、またはそもそも勉強

の内容が不十分だとしか思えない。来日するまでは、多くの中国人留学生は、何かを要求すれば親が応えてくれる、ミスをして親が逃げ道を作ってくれるという親の過保護のもとで育ったため、制限を知らない、度がわからない、やりたい放題という性格を養成してしまい、他人、社会、学校のルールを無視し、自分の意のままに行動する習慣を身につけてしまう。指摘されたら、たとえ自分が悪いだとわかっていても、謝ることがなく、反発的な態度をとってしまう。これは日本の礼儀作法や社会常識にふさわしくないとされる問題行動を引き起こすことにつながるかもしれない。

提言：中国人留学生は中国においても日本語学校においても、日本のマナーや礼儀作法に関連する教育を本格的に受けたことがない。しかし、日本のマナーや礼儀作法は中国人留学生にとって将来の仕事に必要なものだけでなく、留学の意味から考えてもこの誇らしい日本文化の重要な部分を理解してもらいたいと思われ。そのため、特別講座の開催のみならず、「ビジネスマナー研究」などのような全学生を対象とする科目の開設も検討の視野に入れたほうが良いかもしれない。

⑨あなたは両親やほかの親族と連絡を取る主な手段は何ですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
WeChat	53	35	29	30	147
	87%	85%	78%	88%	85%
QQ	6	4	2	0	12
	10%	10%	5%	0%	7%
電話	2	2	2	3	9
	3%	5%	5%	9%	5%
メール	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
その他	0	0	4	2	6
	0%	0%	11%	6%	3%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：この設問の狙いは、留学生が親と連絡する手段を把握し、本学が留学生の親と連絡する手段を確立することと留学生のメールの使用状況を把握することであった。その結果、92%の留学生はWeChatやQQなどのSNSを親族と連絡する主な手段としている。メールを使用する人は一人もいない。電話を使用するのは中国以外の国からの留学生であった。親との連絡だけでなく、ほかの人ともメールでのやり取りは一度もなかった人がほとんどであることが入学後の面談で分かった。メールでやり取りをするのは「時代遅れ」という中国人留学生が多かった。現在の中国では、人々のコミュニケーションの道具として主にWeChatというSNSのスマートフォン版やパソコン版を使っており、海外と取引のある人を除き、メールを使用する人は非常に少なくなっている。そのため、日本ではメールを公式な連絡手段として使用していることを留学生たちは認識しておらず、メールの使い方も知らないし、メールの書き方や特殊表現も知らない。いかにして中国人留学生にメールの使用法を指導するかは非常に重要な課題である。この課題を解決できなければ、中国人留学生の日本留学生活に大きな支障を与える可能性がある。

提言：メールの使用法の学習をはじめ、メールの送受信が実践できる環境の整備も考慮すべきである。現行の「表現とICT」授業には、メールの使用法に関する内容が取り組まれているが、学習した後の実践及びフィードバックに関してはまだ十分と言える状況ではない。

⑩あなたは普段日本人の先生以外に日本人と話をするチャンスがありますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	39	29	19	18	105
	64%	71%	51%	51%	60%
いいえ	22	12	18	17	69
	36%	29%	49%	49%	40%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：60%は学校の先生以外の日本人と話をするチャンスがあるが、そのチャンスを利用せず、話す勇気がない人が多いと入学後の面談で分かった。その主な理由は「怖い」。日本人が怖いではなく、日本語が下手だから日本語で話すのが怖い、または言い間違っ笑われるのが怖いとのことである。中国人留学生の話す相手はほとんど中国人留学生同士であり、買い物などもなるべく話さなくても良いところや中国人経営の中国物産店で済ませることが多いという。

提言：日本人と話す「怖さ」を解消するためには、留学生に気軽に話せる相手や環境を提供することは大事だと考えられる。実際には、日本人学生と会話したい留学生が大勢いることは2020年12月3日に本学の学部1～4年留学生及び保護者を対象とするアンケート調査で明らかになった。

●もしオンラインで日本人と会話するチャンスがあれば、学生：あなたは参加しますか。保護者：あなたは子どもを参加させますか。

項目	人数		比率	
	留学生	保護者	留学生	保護者
はい	75	109	67%	98%
いいえ	37	2	33%	2%
合計	112	111	100%	100%

●オンラインで日本語会話をを行う場合、その相手について、あなたはどちらを希望しますか。

項目	人数		比率	
	留学生	保護者	留学生	保護者
日本人学生	57	38	51%	33%
日本人教員	52	73	49%	67%
合計	112	111	100%	100%

会話の相手については、留学生と保護者の希望は異なっているが、日本人と会話したい、日本人と会話させたい気持ちは留学生も保護者も変わらない。留学生のこのニーズに応えられる方法の一つは、留学生とのコミュニケーションや正しい日本語の使用を目的とする日本人学生がチューターとなる留学生チューター制度だと思われる。この制度を円滑に実施することができる前提条件として、日本人と会話することが怖くない、むしろ楽しいと体験させることだと考えられる。そのため、会話したいという気持ちを持たせることをはじめ、正しい日本語で会話することへと進め、さらに専門分野での会話へとレベルアップするというステップ・バイト・ステップの会話方法は、チューターとなる日本人学生に課した重要なミッションであり、チューター制度成功のカギだと考えられる。

⑪あなたは日本人の友達がありますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	15	21	18	9	63
	25%	51%	49%	26%	36%
いいえ	46	20	19	26	111
	75%	49%	51%	74%	64%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：36%は日本の友人がいるのに対し、64%はいない。来日してすぐに入学した日本語学校に外国人学生しかおらず、日本人と接するチャンスがない、そしてアルバイトをする必要もないため、アルバイト先で日本人とふれあ

い友達になるチャンスもない、さらに日本語が苦手のため、居住地や通学先の地域の日本人とコミュニケーションすることができておらず、友達を作ることができない、などは主な原因として考えられる。

提言：留学生チューター制度を活用し、チューターとなる日本人学生との会話をきっかけに、日本人とコミュニケーションするコツを身につけて、多くの日本人と交流したい気持ちを湧き起させることで、日本人と友達になる突破口を切り開いていく。

⑫あなたの健康状態はどうか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
健康	31	17	24	22	94
	51%	41.5%	65%	63%	54%
普通	27	23	12	11	73
	44%	56%	32%	31%	42%
あまり健康ではない	3	1	1	2	7
	5%	2.5%	3%	6%	4%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：健康だと自己判断する留学生は54%いるが、残りの「普通」と「あまり健康ではない」の半数は決して無視できないことである。なぜなら、体調不良、特に心の病を抱えている留学生が多くいることが入学後に判明したからである。親の過保護の下で育てられた中国の一人っ子たちは、来日するまでに常にナンバーワンの自己意識をもち、自分の要求が常になえられる状況にあった。たとえミスを犯しても、失敗をしても、親は常に何かとかばってくれるため、彼らは称賛の声しか聞こえない、成功しか味わえない、意のままに行動するしかできない性格を養っている。逆に批判されたら、失敗したら、何らかの制限にぶつかったら、すぐ撃沈されてしまう場合が多い。この意味において、彼らは自分でメンタルを調整することが非常に苦手だと言える。このような自己メンタ

ル調整力が弱い、プレッシャーに弱い中国人留学生は、失敗すると、直ちに落ち込んでしまい、一部の学生はうつ症状、パニック障害、対人コミュニケーション障害を引き起こしてしまうこともある。授業に出席できない、他人と話すことができない、課題を見ると過呼吸になるなど、中国人留学生の留学生活に多大な悪影響を与えている。

提言：留学生の学修、生活を支援する教職員のほか、留学生の心のケアを行う専門スタッフ及び専門スペースが必要だと考えられる。留学生が心を許す専門的な技術を持たない普通の留学生支援教職員に心の内を打ち明けてくなくても、適切な方法で対応することができなければ、逆に心のケアにならず、心を閉ざしてしまい、症状を重症化になってしまう可能性も否定できないからである。

6. 技術力について

技術力については、主に美術学習時間の長さ、美術進学塾通塾の有無などを中心に調査することにした。

①あなたはいつごろから美術の勉強を始めましたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
幼稚園	0	3	7	8	18
	0%	7%	19%	23%	10%
小学校	21	9	7	7	44
	38%	22%	19%	20%	25%
中学校	14	8	10	7	39
	23%	20%	27%	20%	23%
高校	18	14	9	10	51
	32%	34%	24%	29%	29%
来日後	8	7	4	3	22
	14%	17%	11%	9%	13%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：100%の留学生が宝塚大学に入学する前に美術（デッサンなど）を勉強したことがある。しかも、その中の87%はすでに3年以上の美術学習経験を持っている。入学後の面談で分かった美術を始める主な理由は「好きだから」、「親にやらされたから」、「文化教養科目ができないから」などが挙げられる。高校までの美術勉強の主な方法は週一回か二回程度校外の「美術趣味クラス」に通い、高校に入ったら校内の「美術クラス」で毎日美術を勉強することである。

提言：本学に入学する前に長年の美術学習経験があることから、すでにある程度の技術力を持っている学生が多いと推測することができる。そのため、絵画関係のカリキュラムにおいては、初級、中級、上級などの画力に対応できるカリキュラムの設置、すなわち、カリキュラムの多様化、多層化が必要だと考えられる。レベル分けを行わず、画一化した内容しか設けていなければ、物足りなさを感じ、学習意欲が低下し、本学での学習を中止する留学生が出てくる可能性がある。

③あなたは日本にある美術系進学指導塾（中国人経営の塾を含む）に通ったことがありますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	38	16	29	19	102
	62%	39%	78%	54%	59%
いいえ	23	25	8	16	72
	38%	61%	22%	46%	41%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：59%が日本にある美術系進学指導塾に週3～6回、毎回4時間以上通っていた。ほとんどがそれらの「塾に通って役に立った」と思っており、塾に通わずに自力で進学できる自信がなかったという。その主な理由は「日本の美大受験の内容は中国で勉強した内容と異なるので、塾の指導なしでは進学できるかどうか

心配」ということである。

提言：美術塾特に中国人が経営している美術進学塾の主な学習内容は、中国で培った画力を強化すると同時に、日本の美術大学の授業内容も多く取り入れていると言われている。そのため、前述した中国人留学生の美術学習時間が長いことも考えると、留学生に満足度の高い授業内容を提供するためには、やはり本学の美術、特に絵画関係のカリキュラムの多様化や多層化の必要性があるところでも証明されている。

7. 経費支弁能力について

経費支弁能力については、本学の学費、生活費の出どころ及びアルバイトの状況を中心に調査することにした。

①あなたの学費はどなたが納付してくれる予定ですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
両親	53	37	35	29	154
	87%	90%	95%	83%	89%
親戚	0	0	2	0	2
	0%	0%	5%	0%	1%
自分	1	0	0	0	1
	2%	0%	0%	0%	0.5%
両親と自分	7	4	0	6	17
	11%	10%	0%	17%	9.5%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：89%は両親が学費を納付してくれる人と回答した。「自分」や「両親と自分」と回答したのは香港や台湾出身だと入学後の面談で明らかになった。すなわち、中国大陸出身の人はすべて親が学費を納付してくれるとのことである。ここ数年の留学生の学費納付状況を見ると、親に学費納付通知書を送れば、納付期限内に学費を中国から送金してくれる親が非常に多かった。そのうえ、お金に困っていない、

中国からの海外送金手続きや手数料を省きたいため、1学期ではなく、1年分の学費を一括納入したいという親からの相談も年々増えている。中国人留学生及びその親は学費への心配がほとんどなく、中国人留学生が学費を払えない時代はすでに終わったと言えるかもしれない。

提言：留学生の親のニーズに応じて学費納入方法の多様化を視野に入れて検討したほうが良い。年間学費を前期後期の二回に分けて納付するという従来の納入方法に、年間学費を一括で納入するという方法も加えても良いと思われる。

②あなたの生活費は何によって得ていますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
両親からの送金	49	35	33	26	143
	80%	85%	89%	74%	82%
親戚からの送金	0	1	0	0	1
	0%	2.5%	0%	0%	0.5%
自分でアルバイト	3	1	0	0	4
	5%	2.5%	0%	0%	2%
送金と自分のアルバイト	9	4	4	9	26
	15%	10%	11%	26%	15.5%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：両親からの送金により日本で暮らしている人が82%を占めている。学費の納付と同様に、「自分でアルバイト」と「家族からの送金と自分のアルバイト」と回答した人はほとんど中国大陸以外の出身の学生であった。送金方法として、従来の定期的に定額を振り込むというよりも、中国銀行の親子キャッシュカード（親も子どもも同じ口座、キャッシュカードだけ別）を持たせ、子どもが必要な時に必要な金額を中国の銀行と提携する日本の銀行で自由に下せる方式が多い。そのため、一部の留学生は消費欲を抑えきれず、親の口座から日本円を引き出す限度額（年間500万円）がいつもオーバー

しているという。どのようにして子どもの消費欲を抑えるかという親からの相談が増えている。

提言：本学は留学生の私生活を干渉しないという前提で、節度のある消費行動教育を行うべき時代を迎えたかもしれない。家庭の経済状況及び親が許すのであれば、留学生がどのようにして日本で暮らすかは留学生の自由ではあるが、問題は日本での消費欲を抑えきれず、日本で贅沢に暮らすことに夢中になり過ぎて、日本留学の初心を忘れてしまい、「日本で学習する」という「本業」に悪影響を与えてしまうことである。勉強はどうでもいい、日本を満喫するほうが大事、卒業できなかつたら中国に帰ればいいから、何の心配もない、と思っている留学生が存在しており、無制限の金銭使用に夢中になって、大好きなマンガアニメの勉強も疎かになり、抑えられない自由消費の快感は日本のマンガアニメを学ぶ夢を簡単に打ち破ってしまった事例が実際に起きている。

③あなたは母国（または日本）で仕事したことがありますか（アルバイトを除く）。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	8	5	4	5	22
	13%	12%	11%	14%	13%
いいえ	53	36	33	30	152
	87%	88%	89%	86%	87%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：13%は本学に入学する前に仕事をしたことがあるのに対し、したことがない留学生は87%を占めており、圧倒的に多い。すなわち、「学校から学校へ」の経験しか持たず、学校以外の社会経験がある人は少ない。この意味において、これらの留学生たちは、中国のこともあまり知らなければ、日本のこともあまり知らないと理解したほうが良いかもしれない。

提言：日本人学生との交流をきっかけに、日

本の社会や日本人と触れ合うチャンスを徐々に増やしていく。地域のボランティア活動や国際交流イベントなどへの参加を促す必要がある。日本社会を理解させる環境を整備しながら、日本の会社などへのインターンシップ制度も確立したほうが良い。

④あなたは現在バイトしていますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	8	5	3	2	18
	13%	12%	8%	6%	10%
いいえ	53	36	34	33	156
	87%	88%	92%	94%	90%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：90%は「アルバイトをしていない」。しかも、「これからする予定もない」。アルバイトをしない主な理由は「お金に困っていない」、「勉強に専念したい」、「疲れるから」、「アルバイトの意味が分からない」という学生の考えに対し、「アルバイトをしなくていいから、勉強に専念してくれればいい、学費や生活費はちゃんと送る」と多くの保護者もこのような考えを示した。アルバイトをしている少数派の主な理由は「親の負担を少しでも軽減させたい」、「日本語の練習のため」、「日本社会を知りたい」などと語る留学生もいるが、「いろいろなところに遊びに行きたい」、「好きなものをもっと買いたい」、「ペットを買いたい」、「ペットの餌代のため」と述べた留学生のほうが多かった。これはほかでもなく、前述した本学の中国人留学生の中では、アルバイトをしなくても日本で暮らせる裕福な家庭の出身者が多いということの証明である。中国人留学生が出稼ぎのために日本にやってきたという言説は少なくとも本学の中国人留学生に当てはまらない。

提言：中国人留学生に対するアルバイト教育を本学で行う必要があるかもしれない。日本のほとんどの大学は留学生に対してアルバイト

をやり過ぎないように「アルバイト制限」教育を行っているが、本学は日本に先駆けて「適切なアルバイトをする」教育を行ったほうが良い。生活のためではなく、日本社会に溶け込んで日本を理解すること、実践の場として使える日本語を練習すること、日本人と交流の場を増やすこと、金を稼ぐ大変さを体験すること、親の過保護から離脱し経済の独立性を鍛えることなどが目的としてあげられる。

8. 本学の受験動機について

本学の受験動機については、本学を選択した理由、本学の受験を決定した時期、本学の受験を決める際に役に立った情報などを中心に調査することにした。

①宝塚大学はあなたの第一志望でしたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	34	25	20	24	103
	56%	61%	54%	69%	59%
いいえ	27	16	17	11	71
	44%	39%	46%	31%	41%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：本学を第一志望で入学した留学生は59%を占めているが、41%は仕方なく本学に入学したことが明らかになった。59%の留学生は本学の教育理念、カリキュラム設置、授業内容や教育方法、学校場所や設備などに納得し、ほかの大学を選ばず、本学を専願した。しかし、残りの41%は本学を一時的な避難所として身を寄せ、第一志望校に再度挑戦し成功すれば、本学を去る中退予備軍である可能性を否定できない。

提言：本学のカリキュラムや教育方法及び教員の魅力で留学生を引き留める以外の良い方法が見つからない。授業内容に対する満足度及び学生対応の適切さは新入留学生が持っている

る本学の印象やイメージを変更させる重要なカギとなる。留学生の継続学習を現実化するためには、留学生に満足度の高い授業内容を考案し、あらゆる面における適切な留学生対応方法を講じることが不可欠となる。

②あなたは宝塚大学の受験を決定したのはいつ頃でしたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
夏休み	8	16	20	9	53
	13%	39%	54%	26%	30%
9月～10月	25	13	15	8	61
	41%	32%	41%	23%	35%
11月～12月	16	8	0	11	35
	26%	20%	0%	31%	20%
1月～3月	12	4	2	7	25
	20%	9%	5%	20%	15%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：65%は夏休み～10月の間に本学の受験を決めた。筆者の長年の留学生進学指導経験によれば、中国人留学生がある大学に進学するという結論を出すに至るまで、通常であればインターネットやオープンキャンパス、先輩の口コミなどで進学したい各大学を調査し、各大学を比較しながら、両親の意見や日本語学校の先生のアドバイスも参考にして決定するという過程は、最短でも2か月かかると見られている。そのため、彼らの進学意思決定までの最速時間、すなわち夏休みの8月から逆算すれば、6月が彼らが大学進学を本格的に動き始める時期ではないかと考えられる。

提言：本学の立場から見れば、6月が中国人留学生に大学選択を考えさせる材料を提供する最も重要な時期だと思われる。すなわち、留学生募集のための本学のアピール時期は6月からが肝心だということになる。この最適な時期を見逃さないように広報や資料の提供、オープンキャンパスの開催などをしたほうが良い。

③あなたは宝塚大学を選んだ理由は何ですか
(最大三つまで選択可)。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
勉強したい分野・ 学科があった	47	31	31	33	142
	33%	31%	33%	33%	33%
合格できそうな 大学・学科だった	11	8	10	10	39
	8%	8%	11%	10%	9%
日本語学校の先生が 勧めてくれた	8	8	6	7	29
	6%	8%	6%	7%	7%
家族親戚が 勧めてくれた	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
就職がよさそう だと思った	6	7	7	4	24
	4%	7%	7%	4%	5.5%
授業の内容が いいと思った	14	8	5	14	44
	10%	8%	5%	14%	10%
キャンパスの場所 がいいと思った	19	14	14	11	58
	14%	14%	15%	11%	13%
家からの通学が 便利だと思った	6	6	5	6	23
	4%	6%	5%	6%	5%
教員が魅力的 だと思った	10	13	9	5	37
	7%	13%	9%	5%	8.5%
学生生活が楽し そうだった	11	1	4	5	21
	8%	1%	4%	5%	5%
ほかの大学が 不合格だった	5	2	4	3	14
	4%	2%	4%	3%	3%
特に理由がない	3	2	0	1	6
	2%	2%	0%	1%	1.4%
合計	140	108	95	94	437
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：トップスリーは「勉強したい分野・学科があった」(33%)、「キャンパスの場所がいいと思った」(10%)、「授業の内容がいいと思った」(9%)である。多くの中国人留学生は「勉強したいことがある+いい場所にある」ということを大学選択の重要な基準としていることを、筆者の長年の留学生指導経験で感じていたが、今回の調査は、それを裏付ける証拠となった。これを逆手にとって考えると、「勉強したいことがある+いい場所にある」ということは本学の留学生向けのセールスポイントになる

かもしれない。3番目に選ばれた「授業内容がいいと思った」は、オープンキャンパスに参加した人の実感だと推測できる。実際にその後の個人面談で、オープンキャンパスの模擬授業を受けてとてもよかったから受験を決めたと語った留学生も少なくない。

提言：あらゆる手段を駆使し、中国人留学生に「勉強したいことがある+いい場所にある」ということをアピールしても良いかもしれない。そして、オープンキャンパスの模擬授業は中国人留学生にとって受験決定の重要な要素となり、より良い模擬授業の構築は言うまでもなく、いかにしてオープンキャンパスへの中国人留学生参加者を増やすかも今後の重要な課題になる。

④宝塚大学への入学を決定する際に、あなたは一番重視したのは誰の意見でしたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
両親	1	5	1	2	9
	2%	12%	3%	6%	5%
日本語学校の先生	10	2	0	5	17
	16%	5%	0%	15%	9%
塾の先生	7	3	5	3	18
	11%	7%	14%	9%	11%
在学中の先輩	6	4	4	4	18
	10%	10%	11%	12%	11%
自分	37	27	27	20	111
	61%	66%	73%	59%	64%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：64%が自分の意思で宝塚大学への入学を決断したという結果は、今までの中国人留学生に対するイメージを覆すものと言える。90年代以後に生まれた中国の一人っ子たちは、「小皇帝」と呼ばれる家庭の中心的存在であり、二人の祖父母と両親の六人の大人の溺愛の下で育ち、欲しいものがすべて手に入るような何一つ不自由のない生活を送っているとよく

言われているが、子どもが進学するとなると、どこの大学へ行くか、何の専攻にするかはほとんど親が決定する。生活の面においては子どもの言いなりになる親が、子どもの将来にかかわる勉強や進学などを直面する際に子どもの意見を聞かずに親が良いと思うところに無理やり行かせるという傾向は、今の中国の家庭の特徴の一つだと言われている。その主な理由は、本学の留学生の保護者へのインタビュー調査で明らかになった。①子どもが一人しかいないので、失敗は許されない。子どもの失敗を非常に恐れている。②ほかの家庭に負けたくない、ほかの家庭が子どもに何かをやってあげると自分もやらなければならない。スタートラインから負けたくない。③自分の少年時代の苦難や失敗などの影響で、「絶対子どもに自分のような苦しい体験をさせたくない」という心理が生まれ、ついに何でも子どもの代行をしてしまう。④まだ子どもだから、まだ何もわかっていない。やってあげないと、絶対失敗する。上記の理由で、中国では、上級学校、特に大学への進学する際に、何を勉強するか、どこの大学で勉強するかといった人生を左右する大事なことを子どもが自分自身で決定することはほとんどない。しかし、本学の四年間の新入留学生の調査データを見ると、64%の留学生は自分で本学への入学を決めた。「今までは何もかもすべて親が自分の意思を無視して決めたので、親を離れた今は自分で決めたい」と多くの留学生は言う。これは、来日した後に親の過保護からの脱却を試みた証拠の一つに違いないであろう。一方、36%の人はやはり自分一人で本学への入学を決められなかった。

提言：留学生募集時に何らかの形で留学生本人に自分で決断させる材料を提供することが非常に大事だと考えられる。すなわち、パンフレット、ポスターなどの広報に関する販促物、留学生対象の進学説明会、募集要項などを考案する際に、保護者、学校の教職員の視点だけでなく、留学生の視点に立って簡潔にわかりや

すくまとめることも重要だと思われる。

⑤あなたは大学を選択する際に一番役に立った情報はどれですか。

項目	人数/比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
大学のパンフレット	5	2	5	5	17
	8%	5%	13.5%	14%	10%
大学のホームページ	23	14	12	17	66
	38%	34%	32.4%	49%	38%
大学のポスター	1	2	9	0	12
	2%	5%	24.3%	0%	7%
オープンキャンパス	19	16	5	2	42
	31%	39%	13.5%	6%	24%
入試相談会	2	3	4	3	12
	3%	7%	11%	9%	7%
日本語学校の先生	9	1	2	3	15
	15%	2.5%	5.4%	9%	9%
両親や友人	2	2	0	5	9
	3%	5%	0%	14%	5%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：トップワンは本学のホームページということが明らかになった。大学のホームページの情報が本学の中国人留学生の大学選択に一番役に立ったという結果は、中国現代社会の特徴を表していると考えられる。「ネット社会」と称されている今の中国では、スマートフォンやパソコンが使える人であれば、情報の信憑性や情報の良し悪しに関係なく、自分が欲しがっている勉強や仕事、生活などのあらゆる情報をネットから収集し、また自分が知っている情報を余すことなくネットに公開するという社会現象が起きている。何かを知ろうとする際に、まず「ネットで調べてみる」、「ネットでの口コミや評判を見てみる」という行動をとるのがすでに社会常識として定着している。そのような環境で育った中国人留学生が、大学を選択する際に各大学のホームページからの情報収集を主要な手段とするのは当然だと思われる。

提言：留学生を対象とするホームページの整備は留学生募集においては非常に重要なポイントになる。中国でブームになっている日本漫画アニメゲームのアピールを全面的に打ち出し、そして、中国語版の導入を検討すべきだと考えられる。

⑥あなたは宝塚大学のオープンキャンパスに参加しましたか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	28	24	23	15	90
	46%	56%	62%	44%	52%
いいえ	33	17	14	20	84
	54%	44%	38%	56%	48%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：オープンキャンパスに参加していた留学生と参加していない留学生の差は大きくない。これは前項の「大学を選択する際に各大学のホームページからの情報収集を主要な手段とする」に関連しているのではないかと推測できる。前項の調査では、ホームページの次に進学情報を取得する手段として、オープンキャンパスに参加することが挙げられている。大学に行って、肌で大学の良し悪しを感じてから受験するかどうかを決めることが理想だと思っている留学生は少なくないが、実際には様々な理由で指定された日程にオープンキャンパスに参加できない学生も大勢いると思われる。

提言：そのため、来なくても大学をアピールすることができるオープンキャンパス以外のもの、例えば前項で挙げたホームページの開発も非常に重要だと考えられるが、ホームページやパンフレットだけで味わえない本学の特色満載のオープンキャンパスを企画することが多くの中国人留学生を来場させるカギとなることも無視できない。有名教授陣の特別講座、先輩学生の作品集、成功した留学生先輩の話、模擬授業の見学などの中国人留学生が望む多

様なイベントをオープンキャンパスに取り組みべきである。

9. 入学後の希望について

入学後の希望については、本学で期待するもの、入学後の不安、課外活動への参加、卒業後の進路などを中心に調査することにした。

①宝塚大学で一番期待しているものは何ですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
将来に役立つ教養や知識を身につける	19	19	14	11	63
	31%	46%	38%	31%	36%
部活やボランティア活動	2	2	2	2	8
	3%	5%	5%	6%	5%
友達や先生など多くの人と出会う	12	4	0	7	23
	10%	10%	0%	20%	13%
課外の旅行や趣味、アルバイトなど	2	1	0	0	3
	3%	2.5%	0%	0%	2%
専門分野の知識・理解を深める	26	14	21	14	75
	43%	34%	57%	40%	43%
日本語力を高めること	0	1	0	1	2
	0%	2.5%	0%	3%	1%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：トップは「専門分野の知識・理解を深める」で43%を占めており、その次は36%を占めている「将来に役立つ教養や知識を身につける」である。この結果から見ると、専門分野でのスキルをアップし、それを自分の将来につなげることが中国人留学生は一番期待していることだと明らかになった。中国人留学生は専門知識の勉強が好き、専門分野以外の知識を関係ないものと見なし、あまり積極的に学習しようとしないう傾向がよく見られる。これは中国の教育方法に原因があるかもしれない。受験に必要な科目は一生懸命に勉強するが、受験にない科目は無視され、極端な場合は勉強しない。小中

高校であれ、大学であれ、あらゆるレベルの中国の学校でこのような傾向が見られる。この中国の学生に定着した習慣の延長線で、将来の就職に必要な科目は勉強するが、就職にあまり関係ないと彼らが考えている科目は勉強したくないという誤解が生じてしまう可能性がある。

提言：まず、「将来に役立つ教養や知識」の意味を明確に繰り返して説明する必要がある。中国人留学生は揺ぎ無い美術への勉強の強い信念を持って入学したため、すぐにでも美術の科目を勉強したい、美術の科目しか将来に役に立たないという偏見を持っている人が多い。社会人として必要な教養や知識及びクリエイターとして必要な教養や知識をあらゆる科目において強調したほうが良い。これを前提にして、中国人留学生に満足度の高い専門分野の授業を提供すると同時に、彼らが重要ではないと誤解しているチームワーク力やマナーなどの内容も重要であると意識させ、学習させることは大学側の喫緊の課題になっていると考えてもいいかもしれない。

②あなたは宝塚大学のサークルに参加する予定ですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
はい	46	26	21	10	103
	75%	63%	57%	29%	59%
いいえ	14	15	16	2	47
	23%	37%	43%	6%	27%
考え中	1	0	0	23	24
	2%	0%	0%	66%	14%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：59%はサークルに参加すると回答したが、実際に参加した人が非常に少ない。サークルとは何かがわからない、好きなサークルがない、授業と関係のないことには興味がない、日本語が苦手だから日本人と関わりたくないなどが理由としてあげられる。これは入学後の

面談で明らかになったことである。

提言：オリエンテーション時に留学生を対象とするサークル説明会を開いたほうがいいかもしれない。日本の大学におけるサークルとは何か、サークル参加の意味、各サークルの活動などを留学生に理解してもらうことを前提にしなければ、多くの留学生をサークルに参加させるのは難しいと思われる。

③これからの大学生活で不安に思っていることは何ですか（最大三つまで選択可）。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
日本語力がついていけるかどうか	27	18	24	21	90
	21%	20%	27%	24%	23%
新しい環境に適応できるかどうか	13	14	7	14	48
	10%	15%	8%	16%	12%
授業・学習が理解できるかどうか	21	24	10	20	75
	16%	26%	11%	23%	19%
仲のいい友達ができるかどうか	32	19	16	15	82
	24%	21%	18%	17%	21%
学費が払えるかどうか	6	4	6	2	18
	5%	4%	7%	2%	5%
在留資格が更新できるかどうか	5	5	4	3	17
	4%	5%	5%	3%	4%
卒業後就職できるかどうか	23	8	15	8	54
	17%	9%	17%	9%	14%
大学での相談相手がいるかどうか	4	0	2	4	10
	3%	0%	2%	5%	3%
その他	0	0	4	1	5
	0%	0%	5%	1%	1%
合計	131	92	88	88	399
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：留学生が抱えている主な不安のトップスリーは、「日本語力がついていけるかどうか」「授業・学習が理解できるかどうか」「仲のいい友達ができるかどうか」ということである。いずれも日本語力に対する自信の無さから生じた不安だと推測することができる。従来の中国人留学生のように学費が払えるかどうかを心配している留学生は一人もいなかった。

提言：やはりどのようにして留学生の日本語力を向上させるかは本学の喫緊な課題となっている（日本語能力に関連部分の提言を参照）。この課題を解決することができれば、留学生の不安を含む一連の問題が解消できると言える。

④宝塚大学でわからないことや悩みがあるときに、あなたは誰に相談したいと思いますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
日本人の先生	14	11	9	8	42
	23%	27%	24%	23%	24%
中国人の先生	17	10	4	6	37
	28%	24%	11%	17%	21%
日本人の友達	9	2	3	7	21
	15%	5%	8%	20%	12%
中国人の友達	21	18	20	13	72
	34%	44%	54%	37%	42%
その他	0	0	1	1	2
	0%	0%	3%	3%	1%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：宝塚大学でわからないことや悩みがあるときの相談相手は、「中国人の友達」がトップで42%を占めているという意外な結果が明らかになった。中国人留学生は何かの問題に出くわすと、その解決方法は自力以外に、同じ中国人同士に援助を求める傾向が強いということを示している。すなわち、教職員よりも中国人の友達のほうが心を開きやすい、中国人の友達のほうが解決策をアドバイスしてくれる、中国人の友達のほうが言葉の壁がなく相談しやすい、中国人の友達のほうが同じ目線で話し合えるということではないだろうか。中国の学生の意識では、教職員とは学校側であり、たとえ解決策を提案できても、自分と同じ立場の友達のような意見ではなく、どうしても大学を代表する公式的意見、すなわち上から目線の命令式のものだと見なしている傾向が強い。それを嫌がるために先生ではなく中国人の友達

を相談相手に選んだとその後の個人面談で多くの学生が語った。中国人の友達を相談の相手には決して悪いこととは言えないが、日本社会に対する理解が浅いため、適切ではない助言や、日本の法律法規や大学の教育方針などに反するアドバイスなどをする中国人の友達の存在も否定できない。

提言：中国人留学生の悩みなどを解消させるためには、学生に信頼され、四年間常に寄り添ってくれるサポーターの存在が非常に大事だと考えられる。本学が設置する留学生センターの主な役割はここにあると考えたほうが妥当かもしれない。

⑤あなたが考えている宝塚大学の一番の魅力は何ですか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
教育方針・カリキュラム	18	9	13	15	55
	30%	22.5%	35%	43%	32%
教師陣	13	7	5	8	33
	21%	17%	14%	23%	19%
校内の施設・設備	8	0	0	2	10
	13%	0%	0%	6%	6%
場所・周辺の環境	20	21	14	6	61
	33%	51%	38%	17%	35%
就職に有利	2	3	1	3	9
	3%	7%	2%	9%	5%
その他	0	1	4	0	5
	0%	2.5%	11%	0%	3%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：「場所・周辺の環境」は35%を占めて、「教育方針・カリキュラム」の32%よりも多かった。中国人留学生にとって、日本最新のメディア芸術の発信地である新宿の駅から歩いて5分という立地が非常に魅力的である。WeChatでの保護者間の会話から見ても本学の抜群なロケーションを絶賛する声が多かった。

提言：大学の視点から本学の魅力を考えるこ

とは当然のことだが、それを前提に留学生の視点に立って彼らが認めた本学の魅力を付加価値として加えると、もっと中国人留学生を引き付ける力があると思われる。

⑥現段階で、あなたは宝塚大学を卒業したら、何をすると考えていますか。

項目	人数／比率				
	2018	2019	2020	2021	合計
就職	41	23	19	19	102
	67%	56%	51%	55%	59%
進学	17	4	5	8	34
	30%	10%	14%	23%	19%
留学就職以外のビザ変更	0	0	0	0	0
	0%	0%	0%	0%	0%
未定	3	14	13	8	38
	5%	34%	35%	23%	22%
合計	61	41	37	35	174
	100%	100%	100%	100%	100%

現状：卒業後に日本で就職を希望する留学生は59%も占めている。中国の大学生就職事情が非常に厳しい状況にあるということは中国人留学生たちがよくわかっており、「卒業＝失業」という残酷な現実から抜け出す方策として日本で就職を試みることは多くの留学生の来日の目的でもある、と面談で留学生たちは言う。しかし、就活は卒業直前に開始する、技術力が高ければ就職できるという中国式の考えを持っている中国人留学生が多い。

提言：留学生の中国式の就職意識を変えることが本学の留学生への就職指導の第一歩だと考えられる。「大学に入った時からもう就活の準備が始まっているよ」という意識を植え付け、四年間かけて就職準備を行う必要がある。そして、技術力が高くても、コミュニケーションの道具としての日本語力や独立思考力と日本社会の一般常識及び仕事への情熱なども備えなければ、日本での就職は不可能に近いということを理解させたほうが良い。例えば、企業のオファーを受けるから、作品を納品するまで

プロセスを体験させ、各ステップにおける不足を指摘し自覚させるなどである。企業からのオファーを受けたら、どのようにして企業の希望に合うように考えて考案するか、その考えの基礎や材料としてのリサーチはどのように行えばいいのか、考えた結果をどのような形で企業に伝えるのか、伝えた結果に対する企業の反応や意見をどのように次の修正や改善に反映するのか、このプロセスにおける各作業の成功は、いずれも日本語力、他人とのコミュニケーション力、思考力、リサーチ力、伝達力などの高さに密接にかかわっており、単なる高い技術力で勝ち取れるものではないということを確実に理解してもらおう。

10. おわりに

本研究は在日中国人留学生教育における研究の空白を埋めようとして、4年をかけて本学の新入中国人留学生の日本語能力、学習能力、技術力、経費支弁能力、受験動機、入学後の希望という現状を中心に調査を行い、その結果を分析したうえで、新入中国人留学生の現状に応じて指導方法の提言を試みた。

全体から見ると、本学の多くの新入中国人留学生は話すこと及び聞くことを中心とする日本語能力が十分ではなく、論理的な思考や独創力などを中心とする学習能力も欠如している。そして、テレビもなく、日本人の友人もおらず、日本人ともあまり話さなく、図書館にもあまり行かない環境で、大学の授業とネットのニュースだけを頼りにして、日本語能力や学習能力の向上を図ろうとしている。これは彼らの日本語や学習能力のレベルアップの足かせとなっている。彼らの多くは入学前に培った技術力が高く、経済力のある親の全面的な資金援助を受け、学費や生活費を心配する必要もない。彼らは本学のユニークな分野設計やカリキュラムに魅了され、自分の将来につながる日本の独特な専門知識や技能を身につけようとしている。

これらの現状を踏まえて、通常授業における訓練を強化すると同時に、日本人学生とのグループ会話や日本語のローマ字入力練習などを通じて、新入中国人留学生の円滑な学習を妨げている日本語能力を向上させることが大事だと考えられる。そして学生の模倣力のみならず、クリエイターの仕事に必要な能力と関連付けて考える力や伝える力及び独創力の土台を構築することで学習能力を高めていき、さらに彼らの技術力に応えられる多様なカリキュラムを開発することも喫緊の課題となっている。

この四年にわたる一つの学部における新入中国人留学生全員への調査は、日本では初めてであり、日本の美術系大学で学習している中国人留学生の実態を示しているのではないかと考えられる。1回のみ調査、または一部の学生に限る調査であれば、偶然性が否定できないが、4年間にわたる全員を対象とした調査結果は、同じ傾向が見られているということは、偶然ではなく、普遍性があると断定できるかもしれない。その調査結果が示した実態に基づいてどのようにしてカリキュラムを編成し、指導方法を考案して留学生の学業成功をサポートするか、本学のみならず、ほかの美術系大学に対しても参考になる価値があるのではないかと考えられる。

本研究では、上記の問題について議論を展開してきたが、新入中国人留学生の現状への指導方法や対応策の提言はあくまでも理論上のものにとどまるに過ぎなかった。どのようにして実践するのか、その実践の結果をどのように検証するのか、まだ十分に探求されていない。それは今後の研究課題となる。

【注釈】

- 1) 宝塚大学入試課より提供されたデータで作成。
- 2) 「2020年全国31省市自治区GDP」『新浪财经』, 2020年1月25日発表,
<https://baijiahao.baidu.com/s?id=16902179>

81017547282&wfr=spider&for=pc

- 3) 「日本語能力試験JLPT」公式ホームページ,
<https://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>
- 4) 「日本留学試験について」独立行政法人日本学生支援機構公式ホームページ,
<http://www.jasso.go.jp/ryugaku/eju/about/index.html>
- 5) 「2021年广东高考录取分数线一览表」,
<http://www.xuexili.com/news/5184.html>

【参考文献】

1. 安婷婷・浜村俊傑・岸本鵬子 (2019) 「中国人留学生における学校ストレスと異文化適応ストレスの抑うつと不安への影響：ネガティブ気分制御期待感の調整効果」『日本心理学会大会発表論文集』83号, 日本心理学会, pp.3B-025
2. 一二三朋子 (2008) 「留学が中国人学生の文化的アイデンティティに与える影響に関する一考察—中国人留学生と中国本国の学生との比較を通して」『文芸言語研究言語篇』53号, pp.1-15
3. 井上恵 (2016) 「在日文系中国人留学生の就業動機と就職不安の関連」『人文科学研究』第12号, pp.217-229
4. 殷夢茜・青木紀久代 (2018) 「在日中国人留学生の異文化適応に関する質的研究」『お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要』19号, pp.49-59
5. 閻琬新・中島平 (2020) 「在日の文系中国人留学生から見た大学専門科目の講義：PAC分析を通して見えるもの」『教育情報学研究』, 東北大学大学院教育情報研究部・教育部, pp.39-54
6. 閻琳・堀内孝 (2017) 「在日外国人留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の因子的妥当性に関する検討」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』44号, pp.175-187

7. 王玉 (2020) 「日本語能力試験N1とN2を目指す特別授業：中国人留学生を対象に」『金城紀要』44号, 金城大学短期大学部, pp.67-77
8. 王揚・阿部康久 (2019) 「自由連想法を用いた中国人留学生の日本への留学動機分析：—ヒューリスティック概念に着目して—」『人文地理学会大会 研究発表要旨』2019号, 人文地理学会, pp.44-45
9. 梶原綾乃 (2021) 「朝日大学における外国人留学生の就職活動に関する一考察」『朝日大学留学生別科紀要』18号, pp.27-30
10. 葛文綺 (2003) 「中国人留学生の適応度に影響を与える個人属性について」『学生相談研究』23号, pp.274-283
11. 上市秀雄・呉麗敏 (2018) 「中国人留学生の留学意識が進路決定に及ぼす影響について—日本の私費中国人留学生に対する調査に基づく検討—」『日本心理学会大会発表論文集』82号, 日本心理学会, pp.1AM-088
12. 韓旭風 (2007) 「友人との付き合い方から見る中国人留学生と日本人学生の友人関係」『留学生教育』12号, pp.95-105
13. 元笑予・馮蓄竹 (2017) 「在日中国人留学生の異文化ストレスによる日本語学習意欲への影響：日本語学校在学の学生を対象として」『日本教育心理学会総会発表論文集』59号, 日本教育心理学会, pp.484-484
14. 木村玉己・中込美賀子 (2003) 「中国人留学生と日本人留学生にみる行動認知差分析」『千葉大学教育学部研究紀要』第51巻, pp.285-288
15. 邱炎 (2007) 「中国人就学生が必要とする日本語学校のサポート尺度の作成」『留学生教育』第12号, pp.37-46
16. 邱炎 (2008) 「中国人就学生の日本語学校に対する援助要請の規定因」『留学生教育』第13号, pp.19-30
17. 邱炎・久保隆夫 (2008) 「中国人就学生のサポート源についての検討——日本語学校に焦点を当てて」『留学生教育』第13号, pp.51-62
18. 仇曉芸 (2020) 「中国人留学生と日本人学生のペア活動から見えてきたもの」『十文字学園女子大学紀要』50号, pp.151-158
19. 金晶晶 (2020) 「就職活動中の中国人留学生が提出したエントリーシートの可否要因に関する一考察」『国際文化学』33号, 神戸大学大学院国際文化研究科, pp.27-48
20. 小松翠 (2013) 「中国人女子留学生の友人形成及び不形成に至る過程に関する研究」『群馬大学国際教育・研究センター論集』第12号, pp.71-86
21. 呉曉良 (2017) 「在日中国人留学生のソーシャル・ネットワークに関する一考察—福岡都市圏を中心に—」, 富士ゼロックス株式会社小林基金2016年度研究助成論文, <https://www.fujixerox.co.jp/company/social/next/foundation/ronbun.html>
22. 呉曉良 (2017) 「在日中国人留学生の友人関係構築における阻害要因：K大学在学生の事例を通して」『比較文化研究』128号, 日本比較文化研究学会, pp.165-177
23. 呉曉良 (2017) 「在日中国人留学生の友人関係とその関連要因：九州大学在学生を事例に」『地球社会統合科学研究』7号, 九州大学大学院地球社会統合科学府, pp.35-44
24. 譚紅艷・今野裕之・渡邊勉 (2009) 「異文化の退陣適応における動機づけの影響——中国人留学生を対象に——」『対人社会心理学研究』（大阪大学大学院人間科学研究科紀要）9号, pp.101-108
25. 張慧穎 (2020) 「ダブルディグリー・プログラムにおける中国人留学生の抱える困難：留学動機の視点から」『人間文化創成論叢』23号, お茶の水女子大学大学院人間創成科学研究科, pp.101-109
26. 趙碩・周正・蘭鵬, 費曉東 (2021) 「中

- 国人留学生における日本留学の現状に関する一考察』『学習開発学研究』13号, pp.117-124
27. 張鳳雲・盧涛 (2020) 「在日中国人留学生の怒り経験およびその対処法について」『広島大学マネジメント研究』21号, pp.101-109
 28. 張文青 (2018) 「中国人初中級日本語学習者の漢字単語学習における意味処理過程の変容—単語シャドーイングを用いた実験的検討」『留学生教育』第23号, pp.53-62
 29. Cherry Jonathan (2020) 「武蔵野学院大学における中国人留学生の社会文化適応能力について」『武蔵野学院短期大学紀要』34号, pp.283-296
 30. 陳佳治・松本真理子 (2020) 「在日中国人留学生における愛着が援助要請の利益とコストの予期および援助要請意図に与える影響」『学校メンタルヘルス』23号, pp.213-221
 31. 丁思琦・松田英子 (2020) 「日本語学校における中国人留学生と異文化適応」『東洋大学大学院紀要』55号, pp.1-8
 32. 寺西光輝 (2017) 「異文化理解教育のための中国人留学生との接触促進の試み」『VERBA』7号, 鹿児島大学言語文化研究会, pp.77-88
 33. 田佳月 (2019) 「中国人留学生の学術レポート執筆不安とその変化：学習背景の違いに着目して」『専門日本語教育研究』21号, 専門日本語教育学会, pp.53-60
 34. 佐々木泰子・張瑜珊・鄭士玲 (2012) 「中国人留学生は日本人との友人関係をいかに構築しているか：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づく支店提示方研究」『異文化間教育』35号, pp.104-117
 35. 白石勝己 (2016) 「留学生受け入れ促進の方途に関する考察—外国人留学生の受け入れ理念の変遷・現状分析・渡日前入学許可募集広報プログラムの試行について—」ウェブマガジン『留学交流』12月号, pp.17-29
 36. 周宇磊 (2017) 「中国人留学生の異文化適応に対する社会学的考察—留学生ネットワークに着目する」『社会学批評』6号, pp.37-47
 37. 周玉慧 (1995) 「受け取ったサポートと適応に関する因果モデルの検討—在日中国系留学生を対象として—」『心理学研究』66号, pp.33-40
 38. 鈴木正行・伊藤裕康・中村博子・符艶花・饒彩雲 (2017) 「中国人留学生と日本人学生とのコラボレーションによる授業開発の意義：ESDのための社会科教材「あなたの水は大丈夫？」の開発と実践を通して」『日本教育大学協会研究年報』35号, pp.49-63
 39. 宋愛芬・石川利江・神庭直子・池澤沙知・渡邊皓司・渡辺真理子 (2006) 「在日中国系留学生の異文化適応におけるストレスとソーシャル・サポートに関する研究」『桜美林論集』33号, pp.109-117
 40. 藤媛媛・林萍萍 (2021) 「新型コロナウイルス感染拡大が中国人留学生に与える影響—その生活・心理・行動に着目して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』7号, pp.47-56
 41. 湯玉梅 (2004) 「在日中国人留学生の異文化適応過程に関する研究—対人行動上の困難の観点から—」『国際文化研究紀要』10号, pp.293-328
 42. 湯永隆・深田博己・周玉慧 (2002) 「在日中国系留学生のサポート獲得方略の使用に関する研究」『留学生教育』第7号, pp.1-36
 43. 湯永隆・深田博己・周玉慧 (2003) 「在日中国系留学生のサポート獲得方略の使用に及ぼす課題達成動機と関係維持動機の

- 影響」『留学生教育』第8号, pp.241-259
44. 湯永隆・深田博己・周玉慧 (2004) 「在日中国系留学生のサポート獲得方略の使用可能性に及ぼす方略の性質の影響」『留学生教育』第9号, pp.57-68
45. 永岡悦子 (2020) 「異文化理解に対する外国人留学生の意識調査：中国人留学生とベトナム人留学生の比較から」『流通経済大学流通情報学部紀要』24号, pp.51-57
46. 萩原桂子・呉素蓮・沙秀程 (2017) 「中国人留学生の日本語集中プログラム：読解を中心に」『九州女子大学紀要』53号, pp.257-270
47. 萩原桂子・沙秀程 (2016) 「日本語教授法の研究：中国人留学生と日本人学生の協同学習」『九州共立大学総合研究所紀要』9号, pp.77-80
48. 濱畑静香 (2020) 「中国人留学生の日本語力の実態と問題点：物語の叙述に着目して」『皇學館大學紀要』57号, pp.174-157
49. 費曉東 (2013) 「日本留学中の中国人上級日本語学習者における日本語漢字単語の聴覚的認知——中日2言語間の携帯・音韻類似性を搜索した実験的検討」『留学生教育』第18号, pp.35-44
50. 姫田小夏 「毎日遊んで買い物三昧、様変わりした中国人留学生」,
<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20190709-00056930-jbpressz-int&p>
51. 松井めぐみ・松岡洋一・岡益己 (2011) 「中国人留学生の就職意識の特徴—岡山大学における調査から—」『留学生教育』第16号, pp.107-116
52. 松原愛 (2013) 「中国語を母語とする日本語学習者の日本語文の繰り返し音読における分散効果——完全処理仮説による生起メカニズムの検討」『留学生教育』第18号, pp.45-54
53. 三好登 (2019) 「中国人留学生の日本の大
- 学への進学行動に関する研究：海外における入試広報効果に着目して」『大学入試研究ジャーナル』29号, pp.269-276
54. 森田聡 (2021) 「中国人留学生における日本留学への意識調査—瀋陽航空航大と大連外国語大学を対象に比較分析—」『北陸大学紀要』49号, pp.73-95
55. 山崎てるみ・榎田美雄 (2017) 「日本的なマンガを描きたい：中国人留学生Dさんにおける異文化理解と表現的確かさおよび洗練性」『現象と秩序』6号, 現象と秩序企画編集室, pp.77-93
56. 李文 (2015) 「中国人留学生の友人ネットワーク」『同志社社会学研究』19号, pp.47-63
57. 李文・陳全 (2020) 「在日中国人留学生のパーソナル・ネットワーク：—社会階層と家族の視点から—」『社会・経済システム』39号, 社会・経済システム学会, pp.53-60
58. 李敏 (2021) 「90年代中国人留学生の日本留学の効果に関する研究：北京日本学術研究センターを例とする」『大学論集』53号, 広島大学高等教育研究開発センター, pp.19-35
59. 梁惠 (2014) 「日本語学校に在籍する中国人留学生のストレスとメンタルヘルス—社会ストレスに焦点を当てて」『立教大学臨床心理研究』8号, pp.33-44